

古街道通信

発行 者：古街道PJ事務局

発行 日：令和5年8月吉日

発行責任者：岩崎 正幸



城山を山桜の景勝地に！

8月6日（日）。本年度の事業計画に基づき、桜の苗木を植樹する場所について調査を行いました。



南居ルートと杉谷ルートに分れて、自生している山桜の本数と幹の太さの調査を行いながら、合谷口で解散としました。

そのうち、南居ルートの調査の概要について、簡単に報告をします。



天満神社口から、大谷口を過ぎてしばらく行くと、見上げるような山桜の大木に出会いました。

下草を刈ったり、雑木を伐採しながら登ってきたので、疲れしました。一休み、一休み！



立派な山桜が自生していて、幹の直径が70cmほどの大木もありました。

田嶋実行委員長は、一心不乱に下草刈りに専念しています。

これで、かなり歩きやすくなりました。



社清明南

浅水郵便局の前にある「あさむつ橋」にまつわるお話を、今回と次回の2回に分けて掲載します。今回は「西行法師」にまつわるお話です。

足羽高校から麻生津駅に向かう途中の浅水郵便局の前に「あさむつ橋」と言われる橋があり、そのたもとに石碑が建っているのをご存じでしょうか。

西行法師や松尾芭蕉のほか、多くの人たちのこの地を題材にした歌がこの石碑には彫られていて、後世に歌い継がれています。



「あさむつ橋」のたもとに建つ石碑

越に来て 富士とやいはん角原の 文殊がだけの ゆきのあけぼの

あさむつや 月見の旅の 明けはなれん



〔西行法師〕



〔松尾芭蕉〕

注目したいのは、西行法師が雪の文殊山を眺めて書いた歌であれば、この地に来たことは明らかです。足元が悪であった時期に、これから先もさらに険しくなるであろう越乃国の旅を続けるため、この辺りで何泊か滞在したと思われる。そうであれば、その当時、近くにある城山に建っていた「落野寺」（現在の猿田彦神社）あたりが妥当ではないかと考えられます。

社）あたりが妥当ではないかと考えられます。

そのような西行法師の「歌いながら旅をする」というスタイルを広めたのが「奥の細道」を書いた松尾芭蕉です。芭蕉は西行法師の偉業に感じてこの地を訪れたのかもしれませんが。（田嶋 則次）



〔猿田彦神社〕

これからの古街道整備計画、役員会等の活動及び開催予定についてお知らせします。

1 2 これからの活動予定

整備計画

- 9月2日（土）
麻生津ルート確定のための現地調査
- 9月9日（土）
麻生津ルートの整備

役員会等

- 9月5日（火）17：00（清明公民館）



編集後記

今年の夏は、本当に暑い夏です。熱中症には十分気を付けて、喉が渇かなくても水分を摂ったり、冷房を使ったりして身体には十分気を付けてください。

古街道通信の7月の発行は中止となり、いつも楽しみにして頂いている皆様には大変ご迷惑をおかけしました。お詫びいたします。

この度、暫定版の古街道復元プロジェクト会ホームページを開設しました。バックナンバーも閲覧できます（thousand fall）



（バックナンバー）